

平成13年度花壇管理状況

梶川 修・木戸基文*

平成13年度は前年度の取り組みで良い結果が得られた部分植替を積極的に取り入れるとともに、芝生除草等を花壇管理業務として一体的に行った。

部分植え替え

部分植え替えにより季節感の演出と華やかさを増すことができたため、大花壇(図1)と小花壇(図2)以外の花壇(カスケード前花壇(図3)、大温室横花壇(図4))についても部分植え替えを行った。(表1)

芝生維持管理業務の一体化

芝生除草等を芝生管理業務として花壇管理業務とは別業務で委託していたが、植え替えの際に機械除草を行う方が効率的であるため、芝生除草等の芝生維持管理を花壇管理業務に含めた。

植え替え回数の増加

一年中華やかさを維持し、かつ季節感を表現するために、部分植え替えを基本に、来園者が比較的に多い、早春と初夏に植え替えを追加するよう植栽計画を立てた。その結果大花壇では初夏に追加し計6回の植え替えを、

カスケード前花壇では早春に追加し計5回の植え替えを行った。

生育状況

マリーゴールドに8月中旬ごろハスモンヨトウが発生したが、アファーム乳剤(1000倍)とマッチ乳剤(2000倍)を散布することで防除することができた。

芝生北花壇

擬木を隠すためにイボメアを植えた。イボメアの生育に伴い花壇と擬木の間の芝生の生育が悪くなったので、芝生を撤去した。

花時計

文字盤部分に4個のフラワーポットがあったが、それにより草花が隠れていた。そこで、フラワーポットを撤去した。

まとめ

部分植え替えを積極的に取り入れることで、季節感を演出し、1年中華やかさを維持することができた。部分植え替えにより鑑賞期間の短い草花の植栽も可能となったため、季節感ある有望品種の検討を行うべきである。

また、芝生管理業務の一体化により効率かつ適正な管理が行われた。芝生の管理が行き届くことで花壇の印象が良くなるため、今後とも一体的な管理が必要である。

表1. 平成13年度花壇植物植栽状況

花壇名	春	初夏	夏	秋	冬	早春
大花壇	ベゴニア・センパフローレンス 赤 a 桃 b c (4/20:植付日)	フレンチ・マリーゴールド 黄 c (5/25)	ヒメコリウス 銅葉 a コリウス 黄葉 b (6/29)	アキランサス 黄葉 a 赤葉 b フレンチ・マリーゴールド 黄 c (9/7)	バンジー ハボタン (11/16)	橙 a 桃 b 白 c アイランドポピー混合 c (3/15) 赤 c
	ディモルホセカ 橙 d (アイランドポピー) 混合 e f (4/20)	ヒポエステス 赤葉 d コリウス 黄葉 e 緑×赤 f (5/25)	フレンチ・マリーゴールド 黄 e サルビア・スプレデンズ 赤 f (6/29)	フレンチ・マリーゴールド 黄 e サルビア・スプレデンズ 赤 f (9/8)	ダージー ハボタン (11/16)	桃 d 白 e 赤 f アネモネ 混合 e f (3/15)
カスケード前	ベゴニア・センパフローレンス 赤 g 桃 i (4/19)	ヒメコリウス 銅葉 g コリウス 黄葉 h 緑×赤 i	ヒメコリウス 銅葉 g コリウス 黄葉 h 緑×赤 i	フレンチ・マリーゴールド 黄 g サルビア・スプレデンズ 赤 h フレンチマリーゴールド 黄 i (9/7)	バンジー ハボタン バンジー (11/16)	橙 g 赤 h アイランドポピー混合 h h 桃 i (2/22)
	ポーチュラカ 混合 j ペンタス 白 k (サザンクロス) 桃 l (5/21)	ベゴニア・センパフローレンス 桃 j サルビア・ファリナセア 青 k (9/6)	バンジー ノースポール (11/16)	バンジー ノースポール 白 k	橙 j 白 k	
展示室前	ポーチュラカ 混合 (4/27)			フレンチ・マリーゴールド 黄 (9/5)	カレンデュラ(冬知らず) 黄 (11/16)	
展示室北		インパチェンス 混合 (6/28)		フレンチ・マリーゴールド 黄 (8/11)	バンジー (11/16)	橙
芝生北	メランポジウム 黄 イボメア 黄緑葉 (4/27)			キバナコスモス 黄 (9/6)	カレンデュラ(冬知らず) 黄 (11/16)	
		ベゴニア・センパフローレンス 赤 白 (5/21)		アキランサス 赤葉 黄葉 (9/6)	バンジー (11/16)	淡青 橙

() は植付日

* 現 (財)広島市農林業振興センター 広島市森林公園

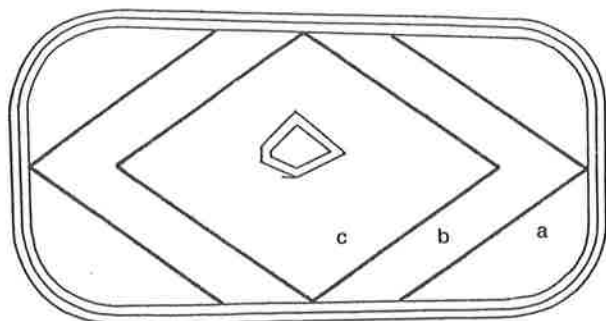


図1 大花壇

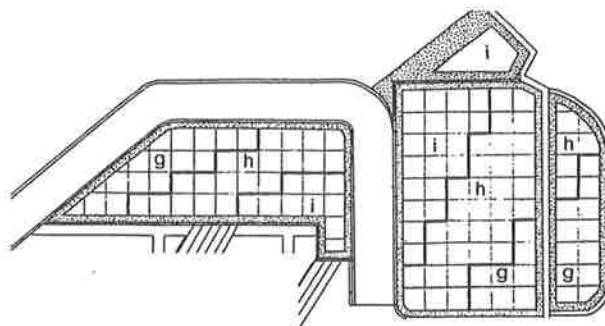


図3 カスケード前花壇

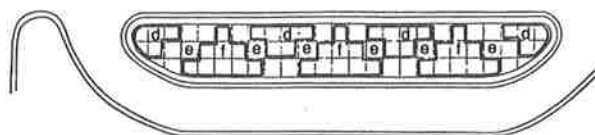


図2 小花壇

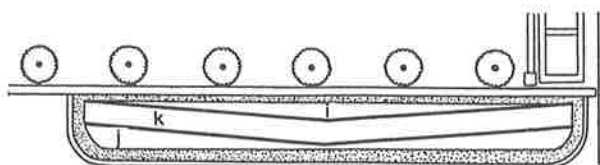


図4 大温室横花壇

表2. 平成13年度花壇植物生育状況

植物名	生育状況	評価	植物名	生育状況	評価
ペゴニア・センパローレンス	良好 6月中旬雨で痛み始める	○	アキランサス	発色良 草姿が乱れずデザインにめりはりつく	○
デイモルホセカ	不良 花付き悪い	×	サルビア・スプレnden	良好 花がら摘みを頻繁に行ったため花付き良	◎
サザンクロス	冬期の発色良いが、夏期に枯死	△	サルビア・ファリナセア	花付き悪く、華やかさに欠ける	△
ポーチュラカ	良好 6月中旬から開花	○	キバナコスモス	不良 草丈が伸びず、枯死も目立つ	×
メランポジウム	7月中旬乾燥で痛み、8月上旬撤去	△	パンジー	良好桃色の発色にばらつき有り	○
イボメア	定植後寒さで痛んだが、7月中旬以降良	◎	ハボタン	1月下旬から痛み始める 白葉痛み顕著	○
フレンチ・マリーゴールド	害虫(ハスモンヨトウ)発生	○	デージー	厳寒期開花なし 3月上旬開花始め	△
ヒポエステス	発色良 観賞期間長い	○	ノースポール	良好 12月に摘心を行ったため株張り良	○
コリウス	赤葉生育不良 雨に強いが乾燥に弱い	○	カレンジュラ(冬知らず)	厳寒期の花付き良 3月下旬倒伏	○
ペントス	花付き悪い	△	アイスランドポピー	良好 華やかさに優れる	◎
インパチェンス	良好 7月中旬痛み始め、植え替えを早める	○	アネモネ	デージーとの相性悪い 乱れた印象	△
ヒメコリウス	摘心により倒伏回避 乾燥に弱い	○			

◎:有望、○:十分使用可、△:時期、場所を選べば使用可、×:使用不可

平成13年度植物交換記録

浜谷修一

国外 導入

14カ国37カ所の植物園等から242品目の種子を導入した。うち96品目(表参照)は現在生育中または、枯死前に採種した。なお、142品目は未発芽、1品目は発芽後枯死、3品目は異種であった。